No. 112
公民館だより
平成13年6月
宮津市字由良
由良の里センター内
由良地区公民館

就任にあたり

由良地区公民館長　飯澤登志朗

宮津市では第五次宮津総合計画が発表され、まちの将来像や施策等二十一世紀のスタートにむけての計画であり私たち市民一人ひとりが手を携え協力していく課題だと思います。

今般、前館長の酒田治氏が体調不良を理由に辞任され、その後任として公民館運営審議会に於いて推挙をいただきました。

社会教育法で定められた公民館の目的は、区域内住民のために実際生活に即する教育、文化に関する事業を行い、住民の教養の向上、健康の増進・・と記されています。

公民館活動は年々多様化し、特に昨年から「子ども地域活動促進事業」が加わる等益々幅広い活動が求められています。

将来のふるさとを担う子ども達を地域と学校が連携を強く持ち続け育てていくことも公民館活動の重要な役割と考えています。

自治会長様始め地域の皆様のご支援や公民館関係者のご指導ご協力をいただきながら生涯学習の拠点としての公民館運営に当っていきたいと考えていますのでよろしくお願いいたします。

退任のごあいさつ

酒田治

平成十三年に入っても景気は一向に先行きが見えて来ない状況にある中で、森内閣の退陣。小泉内閣の発足と、慌しい今日此の頃でございます。

そんな時、雅子様ご懐妊の明るいニュースが私達の心を和ませてくれます。

さて仕儀、この度、三月末をもちまして、由良地区公民館長を辞任させていただくことになりました。

平成六年七月、公民館主事、平成十年四月、公民館長として、先輩諸氏の後を受け継ぎ、公民館運営審議会・自治連合会・各団体・公民館役員・地区の皆々様の温かいご指導、ご協力を賜り乍ら、今日が迎えられましたことを深く感謝し、厚くお礼申し上げます。

在任中は、多くの方々との出合い由良岳登山、地区駅伝競走、四部対抗野球、ソフトボール大会、地区運動会、人権学習、自治学級等々多くの行事の中で数多くのふれあい、貴重な体験を学ばせていただいたことを感謝しています。

又、反省点も色々と創意工夫の結果が、充分その成果として発揮できませんでした。

今後公民館活動も様々な施策が要求されて来ると思います。その要求に応じ乍ら、私達の地区を明るく、住みよい町作りに、期待が寄せられます。

新館長のもと、由良地区公民館の更なる発展と地区の皆様のご健勝をお祈りしながら辞任のごあいさつと致します。

平成十三年度

由良地区公民館役員名簿

(順不同敬称略)

主事　枝川隆亮

【運営審議会委員】

由良小学校長　水谷洋子
由良自治連合会長　大森秀朗
脇自治会長　佐原善弘
宮本自治会長　中垣克
浜野路自治会長　足立明
港自治会長　川崎直
下石浦自治会長　岸田明
上石浦自治会長　野村孝行
市議会議員　山下清一
前公民館長　酒田治
学識経験者　四方寿朗
由良幼小学校ＰＴＡ会長　由利昭弘
栗田中学校ＰＴＡ副会長　小室哲朗
由良婦人会長　有田幸子
由良老人会長　岸田勇
由良子供会連絡協議会会長　中尾満久

【公民館役員】

公民館長　飯澤登志朗
主事　枝川隆亮

【分館長】

脇分館長　小室秀雄
宮本分館長　竹田茂
浜野路分館長　大森章弘
港分館長　上田泰司
下石浦分館長　岸田剛
上石浦分館長　岸田秀樹

【幹事】

(文化部)部長　中西衛
副部長　岸田孝子
上良宏之・由利昭弘
中西雅彦・中西一雄
岸田国彦・岡田たつ子
中西達也・市場正治
網本芳彦・有田幸子
松林朋子

(体育部)部長　有本敬
副部長　竺原栄
副部長　浜崎利雄
津田一・浜本喜彦
上羽康一・山本かおる
千坂幸雄・中西一就
浜野純子・川崎直樹
山田美代子・柴田克己
新宮さよ子・藤原長宗
山下真寿美・塩森啓子
瀬田直子

(体育部講師)
小室文雄・岸田剛
玉垣泰子

平成十三年度事業計画

【文化部】

盆踊り大会(地蔵盆)　八月十九日
文化祭(婦人会協賛)　十一月三日
人権学習会　十二月九日
四部対抗区民囲碁大会　二月三日
自治学級　二月十日
生涯学習会講演会(婦人会共催)　二月二十四日
公民館だより発刊　年三回
由良歴史年表編纂事業、　周年
こども地域活動促進事業
(子ども会連絡協議会共催)　未定

【体育部】

由良岳登山(第三五回)　四月二十九日
第十三回宮津市地区対抗駅伝競争大会(北部コース)　六月三日
四部対抗バレーボール大会　六月十日
四部対抗球技大会
(野球・ソフトボール)　八月十二日
区民大運動会　九月二日
歩こう会(小学生・保護者・一般)　十月十四日
宮津市市民駅伝競争大会　十一月三日
女子ファミリーバトミントン交流会　二月三日
グランドゴルフ大会
(中・高年者対象)　未定

行事報告

主事　枝川　隆亮

◎十一月三日(金)
文化祭

小学生・中学生の作品そして一般の方々の貴重な作品が会場一ぱいに展示され、また会場を訪れる地区の人々でにぎわいました。

由良婦人会の「うどんコーナー」、「ぜんざいコーナー」には長蛇の列が出来ていました。

また、今年も由良実業会提供の餅つき大会には子ども達が大勢参加し笑顔が溢れています。

搗いた餅は早速ぜんざいとなりました。

◎十二月八日(金)
人権学習会

由良幼小学校ＰＴＡと共催して開催しました。

講師は、宮津教育委員会同和指導員、角野治生先生にお願いして、ビデオ「無くしたいものと大切にしたいもの」、講演は「同和問題あれこれ」について分かりやすく話をしていただきました。

◎二月四日(日)
第三十一回四部対抗バレーボール大会

由良小学校体育館に各部男女チームを集め大会を開催しました。

開催日について色々意見がありましたが寒い日の開催でした。

しかし会場は熱気に溢れ、大きな声援が会場を飛びかい楽しい一日であったと思います。

結果は、男女とも三部が優勝で特に女子チームは一セットも落とさない強さでの優勝であり、今後どのチームが破るか楽しみです。

◎二月四日(日)
四部対抗囲碁大会

由良囲碁同好会(会長熊田良雄氏)のご協力により熱戦が展開されました。

碁は数千年の歴史があると云われていますが近年世界中で親しまれて盛んになっています。

碁を覚えると人との交流も拡がり毎日が楽しくなりますし、囲碁同好会では老若男女を問わず愛好者を募っています。

ちなみに今回の優勝は一部でした。

◎二月十一日(日)
自治学級

講師に山下清一市議会議員、大森秀朗由良自治連合会長をお願いし当面する由良地区の諸問題について意見交換を行いました。

主に山下市議会議員から宮津市の現状、大森自治連会長から由良地区の問題点について説明がありました。

・宮津市第五次総合計画
・市町村合併
・京都縦貫自動車道関連
・脇・下石浦砂防ダム
・脇郡是下浜砂流出問題
・下水問題
・ＪＡ由良支店廃止
・由良川改修　その他

(参加者からの意見等)

・四季を通じて海を美しくしたい、水戸口附近ゴミの山。
○奈具海岸ゴミ投棄が目立つ。
○ＪＡ由良支店の建物の活用。
○自治連合会長の選出方法。
○体験実習館の利用増を！
○下水道について、神崎は着工している。対岸と格差。
○駅裏を開発し住宅誘致を。
○新川沿いから国民宿舎下まで道路を整備したら。
○街づくりプランが必要、活性化対策委員会の活動状況は。
○少子高齢化について。

◎二月二十五日（日）
生涯学習講座

由良婦人会と共催で、講師に松原寺住職岡野聖弘氏をお願いし、「愛語」と題してお話を聞きました。

言葉がいらないのが仏の世界、言葉が必要なのが人間の世界、言葉が通じないのが地獄の世界。

思いやりがあるからことばは要らなかったり（仏の世界）人の言うことに耳を傾けない（地獄の世界）。

美しい言葉の代表は「おかあさん」。

子どもに対しても夫婦間においても、愛情とやさしさ、思いやりに裏付けされたものが必要であり、自分が自分にやさしくなる心を持ちたい。

（以上抜粋）

◎子ども地域活動促進事業
「子ども料理教室」
十一月二十六日、十二月十日
十二月十七日

この料理教室は去る六月二十四日に実施した地引網体験活動に続く行事として開催しました。

平成十四年から実施される学校週五日制を目前に地域で子どもが体験活動を通じて、ふれあいの場を持とうと言うものです。

食改グループの中西悦子さん他同グループの方々に協力を求め、健康に良い食事を自分たちで作り試食する、男の子も女の子も高学年から低学年までそれぞれが役割を持って働き、出来上がったものを皆で楽しく試食することが出来ました。

◎四月二十九日（日）
第三十五回由良岳登山

天気予報は夕方から雨、それでも当日は朝から二百名を越える参加者がありました。

例年のことながら事前に登山道を整備していただいた観光協会由良支部他関係者の奉仕に感謝感謝の思いです。

最年少は森田こうへいちゃん（二才）で元気いっぱいの声に後押しされての登山でした。

昼過ぎから小雨、事故なく全員下山に胸を撫でた一日でした。

就任にあたり
主事　枝川隆亮

このたび、飯澤主事の後任として由良地区公民館の仕事をさせていただくこととなりました。誠に非力極まる私ですが、皆様の温かいご指導、ご協力を賜りながら、歴史ある丹後由良の文化を守る一員として頑張りたいと考えております。

どうかよろしくご支援くださいます様お願いいたし、新任のご挨拶といたします。

人権標語
（平成12年度人権標語入選作品）

やさしさに　ふれるとみんな　いいえがお

由良小2年（当時）　中西裕哉

きてみなよ　みんなまってる　わらってる

由良小2年（当時）　岡本早紀

就任挨拶

由良自治連合会　大森秀朗

この度引き続き、三度自治連合会長という大役を仰せつかり就任することになりました。

今回の就任に当っては、過去二年間の地元の自治会長と兼務という中で、その上左も右も判らない状況で年間三二〇項目を越える事柄を消化するという多忙の極まりでありました。

この間、他の自治会長方からも疑問の声が上がり、平成十一年度半ば次期につなぐ改革が必要とし、後半から平成十二年度にかけて、過去自治会長経験者や他の方々のご意見を拝聴し、平成十三年度からスタートにむけての規約改正内容をまとめる運びとなりました。

規約内容については各自治会でご検討の結果了承されました。その後、各地区から選ばれた推薦委員さんにより会長の推薦のご検討にはいって戴きました。

今回については、各自治会の選挙日程等の関係から時間的な余裕がないため推薦委員さんからの再三の説得に屈し、一年間限りの期限付きという条件でお受けすることにしました。

今回の改革では、過去一人が全てに対応する体制であったが今後はそれぞれが分担して当る体制づくりを大きな目的としています。又次期就任して戴く方の準備の体制づくりもあります。今後推移する中で改革が必要となれば、やぶさかではないと思います。

さて、由良地区は大きな転換時期にあるのではないでしょうか。この四月に入園した園児は六名、零才から入園までの幼児は各年数名と又地区の高齢化率は三十三パーセントと少子高齢化の時代到来、各地区自治会でも空家が増加し人口減が進み、合わせて農地の荒廃が進んで農作物の鳥獣被害の増大等、悪循環の状態です。又周辺では京都縦貫道が来年には宮津まで開通、当地区は今後の改革を迫られる状況ではないかと思います。

このような地区状況下の中、今年は、由良自治連として地区の皆さんの多くのご意見を拝聴し、今後の由良地区づくりの土台となれば・・・と考えています。その為にも地区の皆さん方の一層のご協力をお願いして就任の挨拶とします。

「出会い　ふれあい　学びあい」

―由良地域でもち米つくり―

由良幼稚園小学校校園長　水谷洋子

「田んぼに入る時ぼちょんとして深かった。なんか温かくて気持ち良かった。」

「最初入った時冷たかったけどあとからは慣れて、はじめは失敗したけどやり直したら上手になった。またやりたいな」

五月十四日に青空の下で、由良幼稚園二十名の園児と由良小学校九十三名の児童が、額に汗を浮かべながら「田植え」の体験をしました。

二十一世紀に活躍する子ども達に、「自ら学び　たくましく　心豊かな児童」を育むことを目指して日々の様々な教育活動を進めているところです。

本年度は、由良幼稚園では、文部科学省より「幼稚園における道徳性を培う活動等の充実に関する調査研究」の委託を受けております。

また、小学校では、総合的な学習の時間「由良キッズふれあいネット

ワーク」～であい　ふれあい　まなびあい～学習として、由良地域の自然、歴史、文化、人材など地域の特色を生かし、由良地域を学ぶ、由良地域で学ぶ、児童の心に「ふるさと」を創ることに取り組んでいます。

そこで、地域と連携した活動内容として「もち米つくり」に挑戦できないかと相談したところＰＴＡ会長さんや地域の皆さんのご協力で実現できる運びとなりました。

田中修吉さんより田んぼを提供していただくことになり、田おこし、しろかき等の準備をしていただきました。

当日は、田中さん一家をはじめ、子どもたちへの説明をお願いした平野国男さん、岡田武さんや地域の有志の皆様方十数名が来てくださいまして、子どもたちへの指導、援助に手を貸していただきました。

平野さんから

「五本位ずつ手に取り、指を二本添えて、苗がしっかり立つように植えます。」

と教えていただきました。

「私は、五本ということを忘れなかった。」

と、一年生の児童も心に刻み、手も足も泥まみれになりながら一生懸命に苗を植えつけていきました。

有志の皆さんから一人一人が教えていただくことで、はじめは慣れない手つきや足つきの子どもも、次第に上達し、しっかりと植えつけられるようになりました。

田植えが終わったら、

「さなぼり」といって無事に終わったお祝いをすることも教えていただきました。

まさに、地域の自然（土）や人々との「出会い　ふれあい」を通して多くのことを学びました。

園児や全校児童が体験するのは、田植えと稲刈りが中心となりますが、五年生が、社会科で農業の学習をしているので、草取りや肥料やり、虫干しや水の管理等の世話についても学んでいきたいと考えています。

米つくりの活動の一部を体験することにより、毎日食べているお米に、どれだけ多くの手間がかけられ、多くの人々のお世話のお陰であるかということに気付くことで、思いやりの心や感動する心など豊かな心が育つ機会となることを願っています。

秋には、稲刈り体験、収穫祭もちつき大会なども計画しています。

お忙しい中、幼稚園や小学校のため、準備をお世話になった皆様、当日お力添えをいただいた皆様方に心より厚く感謝申しあげます。

今後も田んぼの管理をお世話になります田中様、平野様、地域の皆様方には、色々ご面倒をおかけしますが、多大のご支援をよろしくお願いいたします。

地域とともに子育てを

宮津市立栗田中学校校長　三田剛資

日頃は、本校へのご支援・ご協力をいただき感謝しております。平成十二年度におきましては、二年生徒たちによります『こころ生き生き体験活動』で、地域の十二の事業所のご協力をいただき、多くの成果を上げることができましたことにつきまして、まずもって御礼を申し上げます。

また、本校が平成二年から継続して行っています地域美化ボランティア活動につきましても京都府教育委員会より『さわやか賞奨励賞』の受賞をしましたことは、自治連合会・PTAの皆様のご協力の賜物と、感謝を申し上げる次第です。

今年度につきましても、二年生徒の『こころ生き生き体験活動』を始め、廃品回収などボランティア活動の実施を予定しておりますので、これまで同様ご支援・ご協力をよろしくお願いいします。

さて、本校の生徒数は、毎年減少化しておりますが、今年度は三十六名の新入生、一学級を迎え入れ、全校生徒一三七名で平成十三年度のスタートを切りました。

学校教育目標は、『豊かな心と健康な体、確かな学力を身に付けた生徒の育成』とし、目指す生徒像は、自ら学ぶ意欲を持つ生徒・自他を尊重し協力しあえる生徒・心豊かで生命を大切にする生徒・自分の言動に責任を持つ生徒の四つを挙げております。学習に、部活動に頑張っている状況にありますが、心が揺れ動く中学期でありますので、子どもたちの内面を鍛えることに重点をおいていきたいと考えています。

毎月十日は授業参観日として保護者以外の方々の参観もいただけるようにしております。その折には、教科同様に道徳教育の参観もしていただくよう考えています。また、学校をよりよく知っていただくために、学校だよりを各自治会のご協力をいただき、月々回覧板で見ていただくようにしております。

ところで、来年度からは、学校が完全週五日制になります。これまで以上に学校教育と社会教育の連携の大切さが問われるようになってきます。このことに関わっては、平成十一年度より全国子どもプラン『緊急三ヶ年戦略』の取組がなされています。この取組は、『ゆとり』の中で家庭や地域社会での豊富な生活体験、社会体験、自然体験の機会を与えることを目的としています。公民館等で色々な行事を計画していただいているように子供会・自治会などでどのように子どもと関わっていただくのかが問われるようになってきます。

子どもたちは、今まで以上に家庭・地域で過ごす時間が多くなります。土曜日に部活動の試合などで学校に来る子どももあるかと思いますが、多くの場合、毎週土・日曜日は家庭・地域で過ごす訳ですから、学校もこの間の過ごし方についてPTA、学級集会、地域集会で提起をしていくよう考えています。

地域行事などに子どもたちが積極的に参加し、地域での結び付きの中で、地域社会の一員という意識を高め、豊富な体験をしてくれればと考えています。これまで以上に地域で子どもたちに声をかけていただきますようよろしくお願いいたします。

吾輩は犬である

子供会連絡協議会会長　中尾満久

吾輩は「チコ」。犬である。

ここで暮らし始めて二年になる。主人は今頭を抱えている。「公民館だより」なる原稿依頼を受けて悩んでいる。今日も散歩はお預けだろう・・・。

吾輩、お気に入りの散歩道がある。駅前に続く桜並木道である。今年も満開時には壮観であった。主人宣わく、美しいのは潔いその花弁では無く、その一瞬の演出を守り続けてくれている近所、地域の人達の「心」だと。晴れやかな瞬間だけで無く、どんなに凡庸に見え様ともその並木道は一年中「心」を貯え続けているのだと。吾輩、「花より団子」である。食事もお預けだろうか・・・。

この家には時折都会から主人の友達が訪ねて来る。主人にでは無い。青き海山、大いなる流れに会いに来たと言う。失礼な話だ。だが主人はまんざらでも無さそうにこの土地の広報員に変身する。豊かな自然、穏やかな人達に包まれて育んでもらった己の人生を重ねて自慢するのである。ついこの間まで似た様な立場であった筈なのに。調子がいいのである。

主人は今年「子供会」のお世話をさせて頂くらしい。地域の宝である子供達の活動の一部を一年間と言えども主人に託すのだと言う。この土地の人達の無謀さ否、度量の大きさに感心する。

主人は近頃の子供達を取り巻く環境に自問自答している。最近は家族の団欒よりも、子供も含めた個人のプライバシー(人権)を大切にする傾向に重きを置き、守りすぎた結果、他人からの干渉などに対して免疫が無くなり、他人から受ける自分の評価を必要以上に気にして、人間関係の軋轢にも悩み、学校などの集団生活の中での他人との付き合いを面倒臭く思う様になってしまい、結局は自分の存在しか見ない様になっている。つまり自分さえ良ければ良いという非常に狭い世界に閉じこもり、人間関係が希薄になった結果、全てとは言わないが、犯罪の低年齢化に拍車を掛けているのではないかと危惧する大人は私一人では無いだろう。大人達よ、今一度子供達と向き合いましょう。人間というのは果たさなければいけない義務や責任がある事を、人に嘘をついてはいけない。傷つけてはいけない。物を奪ってはいけない。陥れてはいけない。その様な人間として生きていく上での基本となる事を子供達に諭さずして、人権や権利を教えるのは本末転倒ではないでしょうか。子供達にはたくさんの人達と接し、その人達の言葉に耳を傾けさせ、自分以外の人間も色々な形で生きている事を意識させ、そこで初めて自分と他人の関係を理解でき、そこからお互いのルールを確認してゆく。そうすれば、自然と自分が守らなければいけない義務や責任も身に付いてくるのでは。他人を意識出来れば、次に触れ合う事も出来る様になるのでは。子供達にはこの触れ合いが生まれてこそ人間は精神的にも物理的にも豊かになれるのだと・・・。

この辺でいいだろうか。主人は吾輩の口を借りると、途端に饒舌になる。困ったものだ。

「公民館だより」の締切日が近づいて来た。主人はテレビと仲良くしている。「サザエさん」だ。吾輩からも詫びておこう。もう原稿は期待出来ない・・・。

吾輩は「チコ」。因みに雌である。

地域に思う

由良婦人会長　有田幸子

婦人会長と言う大役をお受けする事になり何分未熟者である私にとっては、重責でもありその責務を全うできるか不安で一杯ですが、皆様のお力を借り御協力を得て微力ではありますが、この一年がんばりたいと思いますので宜しくお願い致します。

二十一世紀の新しい年と共に少子、高齢化社会が進む現在、青少年の非行、問題行動、子育ての問題、介護の問題等現実の暮らしの厳しさの一端を感じている今日です。

児童虐待というニュースを新聞、テレビ等で見て本当かと耳、目を疑いたくなり怒りすら感じます。親の意にままならない時の虐待が多いとか、「大人が変われば子どもも変わる」と言われているように、今のままではいけないという危機感をもって考えていかなければならないと思います。

二十一世紀を担う子ども達には生命を尊重する心、他者への思いやりや、美しいものや自然に感動する心豊かな人間に成長していけるよう、家庭、学校、地域社会との連携をもち私達婦人会も、お互いに声を掛け合いながら、助け合いながら子ども達を健やかに育むことの出来る地域作りの手伝いを実行していきたいと思っています。

また高齢者問題では、長寿化ということは世話をしている人が六十歳以上の方が多い、こんなことはかつてなかった社会的状況であり、老い問題を見ても家庭だけで対処するには限界があります。昨年四月より介護を社会全体で支え利用者の希望を尊重した総合サービスが安心して受けられる仕組を創ろうと介護保険制度がスタートしました。当地域には、身体機能の維持向上、介護者の負担軽減を図ることを目的とする通所介護事業所として「はまなす苑」が平成十一年十月に開苑しております。また、介護者の介護等に関するニーズ等に対応した保険福祉が総合的に受けられるよう調整を図る「在宅支援センター」もあります。これらを多分に利用されいろいろな情報、知識を得られ高齢者が住みなれた地域で安心して幸せに暮らしていただきたいと願っております。私達も各種地域団体と共に連携し協力し学習の心や、ボランティアの心を養いながら集団という大きな力で活動を展開していくことが、地域の活性化につながり由良婦人会をも成長させていくものと思っています。

五月八日には「地域おこしや温もりのあるまちづくりへの貢献」に対して宮津市民憲章推進協議会から由良婦人会に宮津市民憲章実践者表彰を頂きました。

これも皆様の御協力のおかげと感謝しております。これからも皆様のお力をお貸しいただき活動していきたいと思いますので御協力を宜しくお願い致します。

由良少年剣道教室

由良少年剣道教室指導員　北野　薫

昭和三十二年のある日、駅前の「田村食堂」で二人の剣道屋が何を肴にしてかわかりませんが一杯飲んでおりました。

戦後、米軍の指示により禁止されておりました剣道が解禁となり、全国で剣道が復活して間もないころです。

酒の話の中で、「剣道をしておったのか。」、「もう一度剣道をやろうか。」と戦前の剣道ばなしに花を咲かせ、結論は「子供たちを集めて剣道をやろう。剣道を普及しよう。」ということになったようです。

この二人の剣道屋は、浜野路で製材業を営んでいた故山元久太郎剣道教士五段と剣道四段、故上田耕三先生でした。上田先生は、当時由良小学校において教鞭をとっており、住居も由良で、子供たちにも人気のある先生でした。

学校が終わって、地区で遊んでおりました子供たちに、上田先生が、「今晩から剣道するけど、剣道せいへんか。」、「剣道しよう思ったら学校の体育館に来いや。」、これが始まりであり、剣道教室の第一歩でありました。

「由良地区公民館剣道部」として発足した剣道教室は、遊びの少なかった時代背景もあり、弥七の文ちゃんこと、小室文雄氏（現、剣道教室長）や故山口繁氏、故森本重五郎氏の参加も得て、昔の小学校体育館が一杯になるほどの大隆盛でした。この剣道教室で剣道を習った子供たちが西舞鶴高等学校へ進学し、舞高剣道部の全盛期を支えました。

もちろん責任者は、主任指導員を兼ねた山元先生であり、山元先生は、元海軍の軍人さんで、広島の呉にいたころから、名を馳せた剣道人でありました。

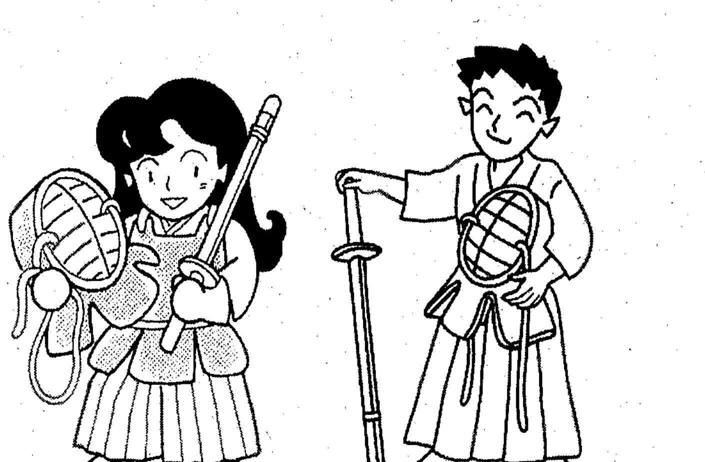
軍隊で鍛えあげた豪快な剣道で子供たちを指導するとともに、昭和三十七年には、由良剣道教室開講五周年少年剣道大会を開催し、大好評を得、これをヒントにし、昭和三十八年から、由良自治連合会の協力を得て、由良観光祭剣道大会を実施して、剣道の普及に大なる貢献をされました。この由良観光祭剣道大会はすでに三十八回を重ね、観光由良の発展にも寄与していると思われます。

今は、少子化の影響を受けるとともに、時代の流れに押され、生徒数は僅か十五名となりましたが、山元先生の弟子たちが剣道指導員として教室を預かり、指導をしております。

剣道は、スポーツとは一線を画したいという考えはありますが、身体を動かし自分を鍛えることについては、同じであります。指導員も全員仕事を持つ身であり、十分とはいえませんが、小学一年生からお預かりしております。

剣道の理念は、「剣道は、剣の理法の修練による人間形成の道である。」とされており、生涯を通じて自分を鍛えることができます。剣道をやってみようと思われる方は、教室長等にご連絡ください。

今後とも地区のみなさまのご支援をお願いいたします。



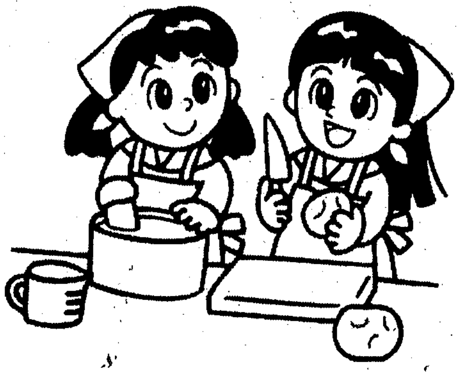
料理教室に参加して

由良小学校六年　中西郁佳

私は、この料理教室にいっていろいろな料理を教えてもらいました。いままで全然知らなかった家庭料理をつくるときいてはじめはなにをつくるのかなあ？　とドキドキしていました。作る前に班をつくり、協力してつくることになりました。

つくりはじめてちょっとすると、たっているのもつらくなりましたが、おいしいお昼ごはんと家庭料理を学ぶため、がんばりました。料理は思っていたより大変で、お母さんもつらいのかなぁ？そう、身をもってかんじました。いろいろ工夫してつくった料理はとてもおいしそうで、実際に食べてみるとおいしかったです。自分で作った家庭料理、大変でとてもつかれるけど自分で作った・・・という実感がつよくなります。ある日には、「あげもの」も作りました。他にも、サラダ、野菜いため、デザートのゼリーなどいろいろおしえてもらいました。

料理教室にいっていた三日間、たったの三日間だったけど、とってもたくさんのたのしくて、おいしい料理をおしえていただきました。おしえてくださった地域の方、この料理教室を主さいしてくださった方々、とてもまなべる料理教室にしてもらって、ありがとうございました。またこの料理教室をやってほしいです。



子供料理教室に参加して

由良小学校六年　由利知恵美

私は、昨年度の由良子供料理教室に参加しました。最初、料理教室に参加しようかしないか迷っていました。でも、私は料理を作るのがとっても好きなので参加することにしました。料理教室に参加している人は、どの位いるのかわかりませんでした。料理教室、最初の日。わくわくしながら由良の里センターへ行きました。行ってみると、たくさんの人がいました。私は料理教室に参加している人がたくさんいてうれしかったです。料理は、三つのグループにわかれてしました。私がこの料理教室の中で作った料理で一番楽しかったのが、ケーキ風のおすしです。大きな型にラップをひいてその上にご飯をのせて、と順番にしていってケーキみたいな形のおすしを作ったのが一番楽しかったです。他にもいろいろな料理を作りました。スープとかデザートとかサラダとかおにぎりなど子供料理教室とは思えないほどこったメニューでした。大変だったことは、分量をまちがえずにはかることが大変でした。みんなでおいしい料理をたくさん作れたし、先生にいろいろおしえてもらったのでとってもよかったです。料理教室で習った料理を家で作りたいです。また参加したいと思います。ありがとうございました。

由良の地名について
—その一—

小谷一郎

由良に住むようになって、由良の地名を少しは考えなくてはならないようになったのは、もう四十年も前のことになります。

土地の歴史を勉強してみようと思いましたが、この地方には史料となるべき古文書が殆どありません。其処で考えたのが、由良の山椒太夫伝説を読み解くことでどんな歴史が分かるだろうかということでした。

そして昭和四十一年の秋のことであったと思いますが、当時、公民館長であった四方先生が、失われるこの土地の民具を集めて保存しようと呼びかけをされました。私もこの呼びかけに賛成してこの運動に加わりました。これが「由良の歴史をさぐる会」になっていったのです。民具はこの土地に住む人々の生活の道具ですが、それは単なる使いすてられるものでなく、その道具を使ってきた人々の暮らしの証しであります。道具はその人々の歴史を語る史料でもあります。それで、由良の民具を集めた郷土館は、単なる民具を集めた建物ではなく、これを通じて由良の歴史を考え、由良の歴史をさぐる拠点となったのです。

こうして、歴史をさぐる二つの入口は見付かりました。次に大きな史料があります。それが、由良の人々が生活して来た由良の土地です。土地には自然の形態だけでなく、その土地に呼びならわしてきた地名があります。この地名は古い時代から今の私達が住むまでの間、長い時代を通じて呼びならわしてきたものです。この地名も、最近行政の利便のために変更されることがあります。地名は、何故そう呼ばれているのかを考え、読み解くと、それはまた土地の歴史を物語ってくれるのです。それで地名は、土地に書かれた古文書であり、簡単に変更されたり、失くしてはならないと思います。そして、其処に住む人々は、その地名は呼び続けることはできるのです。地名を大切に呼び続けていってほしいと思っています。

前置きばかりになっては申し訳がないので本論に入らなくてはと思います。

四十年も前になります。まだ舞鶴市史の編さんも始められていない頃のことです。池田儀一郎著「舞鶴史話」を読みました。由良庄という庄園があったということが書いてあったのです。

その内容は

由良は文治二年の頼朝の下文によると加茂別雷社の社領つまり荘園であったようです。この頼朝の下文は今も上加茂神社に所蔵されているはずです。(同書五十頁)

というのです。この部分について、私は「山椒太夫伝説の周辺」を執筆していたとき、その七回目に書いています。しかし、「舞鶴史話」を執筆した池田儀一郎氏も、この文書の「由良庄」を「丹後由良」と解釈した村田正志博士の説(昭和十六年の源頼朝の文書の研究報告)をその侭、採り入れて書かれたものでした。

この文書のことについては、その時にも、この「由良庄」は現在は兵庫県氷上郡氷上町になっている旧幸世村を含む、古くは加茂郷といわれた区域であること、そしてその区域内の北田井にある加茂神社の氏子域と重なる区域であることを説明して当然、丹波の由良であって、私達の住む丹後由良ではないと書いておいたのです。

(以下次号)

(平一三・五・二二)

赴任にあたって

由良駐在所　中川卓也

この三月九日付で、由良駐在所勤務となりました中川卓也と申します。

春も、もうすぐという今年の三月八日、妻と共に駐在所に引っ越して参りました。この日の晩は季節外れの大雪で、雪にまみれながら自家用車のタイヤにチェーンを巻きました。

「何と雪の多い地域だろう。」

と妻と二人で顔を見合わせ、先行く不安を感じました。しかし、住民の方々、宮津署員から、

「この季節の大雪は珍しい。」

とのことを聴き、ほっと胸をなでおろしました。この季節外れの大雪の歓迎で、私がここ由良駐在所に赴任してきた平成十三年三月八日は、忘れようとも忘れることのできない、記念すべき人生の一ページに残るものとなりました。

ここで、簡単に自己紹介をさせていただきます。私は現在二十六歳で、出身は関東の茨城県です。家族は、奈良県出身の妻との二人暮しです。前任は宇治警察署で、交番勤務をしておりました。

実は、警察に勤務する前、私が大学生だった頃、一度由良を訪れたことがあります。結婚以前の妻とドライブでこの由良に来たのです。由良に配置が決まって、妻は、

「海の奇麗なところだ。」

と言って大変喜んでいました。ここ由良は私達夫婦にとって思い出の土地でもあったのです。

由良の第一印象は、何と言っても先程も言いましたとおり、雪の多いところだということです。さらに、自然豊かなところだということです。由良海岸、奈具海岸、そして駐在所からも望む由良ヶ岳はまさに絶景であります。由良ヶ岳の頂上からは、晴れた日には遠く若狭湾まで望むとのことを住民の方から聞き、在任中一度は必ず登ってみたいと思っています。

さて、丹後由良を受け持つ由良駐在所に赴任してきて約三ヶ月近くが経ちました。私は以前から駐在所勤務を希望しており、希望どおり由良駐在所に配置となったのです。私がなぜ駐在所勤務を希望したかと言いますと、地域で生活し、地域の方々と苦労を分かち合い、仕事をしていきたい、これが警察の原点と思ったからです。

とはいえ、駐在所に来る前は、希望や期待だけでなく、住民の方々が私を受け入れてくれるだろうかと不安もかなりありました。しかし、朝の交通整理の時、通学する子ども達が元気な声で挨拶してくれました。また巡回連絡での家庭訪問やパトロールに出た際、住民の方々から労いの言葉を掛けていただいたり、普通人前に出ることの少ない妻への細やかな気配りをしていただきました。そうした由良の方々の人情、温かさに触れていくにつれ、赴任前に抱いていた不安は和らいでいきました。そして、地域の行事にも度々誘って戴き、由良に打ち解けられてきたと思います。

私共は、まだまだ若輩ですが、一生懸命頑張らせてもらう所存であります。ここ由良で勤務できることを心から感謝しております。

由良が平穏で、安全に暮らせる街として、微力ながら役立たせていただくつもりですので、どうか皆様の御協力とまた、御助言の程よろしくお願いいたします。

現代美術の審査

由良神社宮司・画家　嶋谷卓之

今年も三月末に一週間、日本の現代美術を位置づけているモダンアート展の作品審査の為上京しました。審査会場は東京上野にあります東京都美術館の地下三階で、十畳余のエレベータが上がったり下がったりの工場の様な所で、約五十人の審査員が全国から応募された力作を、一般出品・会友出品と数千点を順にみていく分です。朝九時から夕方五時まで、その間昼一時間だけ食堂で休息があるのみの将に強行の毎日です。審査作品の対象は絵画・彫刻・版画・デザイン・スペースアート（工芸）写真の六部門です。審査日程も後半になる程、疲労が加わってくるのに反比例して作品の質も高くなり、頭が混乱状態でパニックになります。毎年このところ出品者も増加の一途で、点数も多くその分審査も厳しくなります。美術館展示の都合上、作品の大きさも制限せざるを得ません。大作四十点に一点の割合で入・落を決定します。初出品者には作品を丁寧にみるよう心掛けますが、何しろ時間の制限には勝てません。審査員の顔ぶれは東京芸術大学を始め、各美大教授、国際的に活躍する作家、デザイナー等、多彩なメンバーです。私自身十数年間審査に立ち合っていますが、最後の二日間は授賞作品の決定に当てられます。今年は二十二年振りにモダンアート協会賞・安田火災財団賞を関西の女性が取ることになりました。この賞は最高賞で二十一年間は全部関東勢に持っていかれていましたので関西が受賞するのは奇蹟に近い状態だったのです。毎年審査に出て感じることは、年を追うごとに女性の出品が確実に増え続けていることです。そして作品の質・内容も高くなっています。さて、最終審査決定の舞台裏にはドラマがありました。それはもう一人別の女性作家で、東京芸術大学院生しかも彼女は数年来、モダンアート展で様々の賞を取っていました。今年も二点の出品がありましたが、驚いたことには、全く一点ずつの内容が異なっていたのです。一点は、その描写技術は卓越し写真と見間違う程のデッサン力を示した人物画。一点は、現代人の不安混沌を見事に表現した心象作品でこれとて最高授賞に相応しい作品でした。それに加えこの二点の作品を東京芸術大学の教授が弁説巧みに推薦したのです。しかし私は一点ずつを見ればそれぞれ素晴らしいけれども、同一の人物が創り出した作品としては不可解でした。私は臆せず、彼女が審査員を逆に審査しているような気がしてならず、腹立ちを感じたのでその意見を述べたところ、大半の審査員は同じように感じていた様で私の意見に同意し、落選に決定しました。今でも教授と私とのバトル戦を思い出すと緊張感と責任感を覚えます。このことで感じたことは、人間は傲慢と傲りをもつ、そのことが自ら墓穴を掘ることになる。斯くして大賞は関西の女性に移る事になったのです。そして東京芸術大学の教授に熱弁を奮わせた才能ある彼女の作品に来年度、二度出逢いたいと願っている。私自身常に謙虚な気持ちで作品創りに励まなければと改めて痛感し、いち早い現代美術の時代感覚を研ぎ澄ますべく、次の作品創りに働き始めています。

旅は気儘に・・・。

丹後由良ターミナルセンター

二〇〇一、二月十一日（日）
神戸からきました。由良神社で会った小学生が挨拶してくれました。“こんにちは”あたたかい気持ちになりました。こんな良さを忘れないで下さい。

二〇〇一、二月十八日（日）
カニ食べまくりました。もうしばらくいらねえ～ってかんじです。お酒も飲みまくり?。女二人達もそろそろ終了。湯らゆら温泉郷丹後由良。カニ、お酒、温泉、身も心もリフレッシュ。夏にまた来ます。早く夏にな～れ!みゆきとみほこ。

昨日、丹後由良荘に泊まりました。みかん風呂が楽しかった。みかんの投げあい。もうあんな事出来ないかも。またきたいなー。ホンマ良かったヨ。朝、気持ち良い散歩が出来たしネ。
十八才女二人の卒業旅行。

二〇〇一年、三月二十三日（金）
今日は免許の更新で、お仕事休みました。この旅日記を見に来ました。ひまじん・・・ってかんじですが、なんか暖かい感じになりました。

二〇〇一、四月二十一日（土）
昨日長野県松本の奥座敷穂高町から早朝出発。天橋立に下車。夜は由良荘に泊まりました。ゆったりとありがたい気分になりました。困った事は、洋式のトイレがどこにもなくて少しこまりました。丹後はステキで何度もきてみたい所です。どうぞ早急に一ヶ所だけでも洋式トイレを希望します。それぞれの所でトイレについて見てみたいと思います。思い出の旅、一日目の感想でした。長野県南安曇郡穂高町有明。藤井都。

二〇〇一、五月十日（木）
今日は天気が良かった。かなり眠かったー。大阪から三時間かけて訪販に来ました。由良に住んでる人はいい人が多かった。でも買ってくれなかった。なんで・・・。今度由良にくる時は、のんびりと海で昼寝しにきた～い。温泉入りて～。某メーカーのひとり言です。

暖かい駅ね！　ストーブが灯り、テープの声も聞こえ無人とは思えない椅子の布団の心づかい。いいなあ～。西宮市HS

二〇〇一、五月十三日
大阪豊中市からきました。大気汚染がひどいです。それにくらべるとこの空気はまるでうその様にきれいです。豊中は光化学スモッグが発生したりします。のどが痛いです。

のどかな土地柄か人の心まできれいに感じるのはどうしてかな?列車でおりたけど由良の人達の心にふれあえて良かった。
香川県出身　三木

二〇〇一、二月二十四日
今から帰るねん。京都からきてんけどうちおとといまで三十八度の熱があってんけどここに来る為がんばってなおしてん。
母とおじいさんとおばあさんときてん。中二やから今から期末テストやー！いやや・・・。でもきのうはその事忘れて食いまくりました。カニうまかった。

今回もたくさんの方々がメッセージを残して下さいました。車が多い中、列車の旅で、のんびりと、ほのかな旅を楽しんで下さっていました。
また次回へ　。

由良岳登山に参加して

綾部市　中塚すみ子

今年も四月二十九日に、由良公民館の方々のお世話になり、無事由良岳に登ることができました。ほんとうにありがたいと思っております。

今年は少しかすみがかかっていましたが、昨年はくっきりと青葉山、弥仙山、頭巾山、三岳山、赤岩山、大江山連峰を見ることが出来ました。弥仙山の遠いことと又その小さいこと、いつも見ている弥仙山のちがう面を見せていただきました。青葉山の見る場所によってちがうその姿にもびっくりです。

私たち綾部の四人は山が好き、歩くのが大好きです。朝五時半に起き出して寺山に登り頂上で御来光をおがみ六時半に帰りごはんをして仕事にいく者、夕方二キロの道を往復歩く者いろいろですが、運動不足解消に精を出しております。

由良岳の頂上に立ちますと、丹後由良と綾部の距離を遠く感じながらも一目で見渡せるという一体感を感じます。

由良岳は海を見ながら、波の白さを見ながら登るすばらしい展望のひらけた山でした。今後も時々登らせていただきたいと思っておりますが、地元の方が手入れをされていると伺い感謝の念にたえません。ほんとうにありがとうございました。

川柳

大森美智子

自分史に大きく小さく波の音
走らねば私の独楽が止まりそう
終章の旅コスモスに紛れ込む

飯沢鳴窓

聖人は死語か知足の顔がない
両の手に掴むは虚空かも知れぬ
接点にきれいな嘘が落ちている

由良に住んで四十年

思い出すままに（六）

選挙あれこれ　四方寿朗

昭和三十一年九月旧由良村は多くの議論と思案を経て、宮津市への編入の道を選んだ。

昭和三十三年六月、徳田富治氏に代わって矢野二郎氏が新しく宮津市長に就任。その直後、由良にとっては初めての市会議員選挙が告示された。

三十の議席を四十一人で争う激戦であった。当時由良の有権者数一四四九。四〇〇票以上取らないと当選は無理と言われていた。そこへ脇から一名、石浦から二名の立候補者が出た。下手をすれば、全員落選？　十日間の運動期間中、由良でも大変な騒ぎだった。しかし、正直言って、当時、私は由良へ来て開業直後で、残念ながら選挙に無関心だったため、はっきりした状況を覚えていない。

只ひとつ、強く印象に残っているのは、小学校の雨天体操場－昔は体育館とは言わなかった－で三候補の演説会が、満員の聴衆を集めて盛大に行われたことである。由良だけの立ち会い演説会など、選挙管理委員会が許す訳が無い。恐らく三候補の個人演説会を、同じ会場で同時に行ったのではないかと考える。由良弁混じりの応援演説もあって野次も飛び、熱のこもった大変有意義な集まりであった。以後今日まで、この様な演説会は由良では無かったと思うが、優れた先人の知恵を今後に生かしたいものだ。

選挙の結果は二候補が当選、一候補が落選した。因みに由良の投票率は九一・三七％で地区別ではこれでも最低、宮津市全体では九三・七六％であった。

その四年後の昭和三十七年七月の選挙では、幸い由良から二人の立候補で、無事共に当選され、事なきを得た。

私は昭和四十一年四月、岸田六右衛門氏の後任として、許らずも公民館長の大役をお受けした。そして七月、次の市会議員選挙が告示された。八年前の苦い経験が忘れられたのか、今度はまた、由良から三人の立候補者が名乗りを上げた。而も脇、宮本、浜野路からで、勢い地域根性丸出しの、激烈な対抗戦となった。各地区の自治会組織がそのまま選挙に利用された。班長が各戸から一名は必ず選挙事務所へ来るよう触れて回った。毎晩婦人会員が十数人、堂々と交代で各家を回り、投票を依頼した。個別訪問の禁止も何のその「地域から出ている候補を懸命に応援して何が悪い」との勢いだった。私は公民館長即ち宮津市明るく正しい選挙推進委員であり、特定の政党や候補を支持出来ない事を理由に、全く関与しなかった。投票日の前日、私は脇へ往診した。道路に仕事着を着替えた人々が、何をするでもなく並んでいる。「今日、由良中で仕事をしているのは先生だけだ。皆仕事を休んで選挙の応援をしている」とのこと。夜は各地域の境に番人が立ち、よその運動員の通行を禁止した。実弾？が飛ぶとの話もあった。しかし批判など許される雰囲気ではなかった。選挙の結果、やはり一候補が落選となった。

「このままでは、何時までも選挙のしこりが取れず、何とかしなければ」との声が高まった。相談の結果、公民館で今度の市議選について、みんなが何を考え、どのように感じたかを調査することになった。選挙人名簿から、その十分の一人を選ぶため、末尾番号が一の人、男六五、女七二計一三八人が抽出された。（以下次号）

冠島

中西夏江

「雄島雌島は沖から呼ぶよ　みずなぎ鳥にことづけて・・・」

一九五〇年に由良公民館が"由良の唄"を募集、当時ご健在であった山田泰次郎氏（山田正明さんの祖父）の応募作品『由良小唄』（三）番の歌詞である。

「雄島」は"冠島"「雌島」は"沓島"と呼ばれている。

由良の浜に立つと、いつもこの二島は美しく鮮明に、またある時は雨にかすみ、淡く夢のように浮かんでみえたりする。島は「みずなぎ鳥にことづけて」由良の海へおいでーと呼びかけているというのである。この巧みな表現は更に「浜の幸よぶ明日の風よ」と明日への希望を爽やかに託して明るい。

半世紀を越えて私達が年々のお盆に、また他地域との交流会に唄い、踊り続けてきた『由良小唄』。そして、愛する「雄島・雌島」である。

「雄島」は冠島の異名で、他に、奥島、恩津島、大島、老人島など多くの呼び名で親しまれている。

若狭湾上の無人島で、舞鶴港より二八粁はなれ、大水薙鳥の繁殖地として大正十三年（一九二四）天然記念物に日本で最初に指定された。

島は東西四一三米、南北一三一六米、標高一六九・七米。山地の大部分は角閃石安山岩で、遠望すると冠状で老樹密生し、原生林を構成・・・云々と舞鶴市史に委細述べられている。

今から五百年も昔、かの有名な画僧の雪舟は「天橋立図」（国宝）の中に、この「冠島」「沓島」を画きこんでいる。なぜ「天橋立図」の中に？という疑問があったが、

丹後元伊勢籠神社の宮司さんにきかせて頂いた話によると、「籠神社には、"山の奥宮（真名井神社）"と"海の奥宮（冠島）"の二つの奥宮がある。冠島は『彦火火出見尊』を祭神としている」とのこと。

かつての国宝展で私が観たあの「天橋立図」の画寸法は、縦八九・四糎、横一六八・五糎という大きさ。画面右下前面に小さく画かれた二島には、それぞれ「冠島」「沓島」と文字も記されていた。雪舟の画意の如何を想像したり、祭神の「彦火火出見尊」は、海幸山幸神話の山の神であることを思ったりする時、冠島はいっそう興味ぶかい。

更に、寛文年中（一六六一～一六七三）丹後国之図には、「小嶋　田辺より八里」「沖之島　田辺より九里　鶴巣所」と記され画かれている。「沖之島」が「冠島」であろうし、「鶴巣所」とは、当時野生の鶴が棲息していたのであろうか。ある一書には、明治になってから濫獲したため、今は僅かに山口県、鹿児島県に渡来、北海道にのみ営巣している―と書いてある。

歌人上田三四二が由良に滞在中の短歌の一つに「冠島」を

梅雨のあめやうやく晴れて潮ひかる沖にただよふごとき淡島

と詠んでいて共感をよぶ。

由良に来訪した作家三島由紀夫は、小説「金閣寺」の中に、

―河口のむこうに幾重にも畳まれていた波が、徐々に灰色の海面のひろがりを示した。山高帽のような形をした島が河口の正面にうかんで来た。それは河口から八里の冠島で、天然記念物の大みずなぎ鳥の棲息地である―

と描写、独特の表現が面白い。

（次号へ―）

編集後記

子ども達の田植え体験、その様子が目に浮かびます。

公民館役員も新しく加わった方や引き続き力をお借りする方等メンバーを一新してスタートしました。

新しいメンバーでの初めての発行ですが、ご多忙のなか原稿をお寄せいただきました皆さんに厚くお礼申し上げます。

地域の皆さんや、各地の関係する皆さんが楽しく、そして懐かしく読んでいただける「公民館だより」を目差して研鑽を積んでいきたいと考えています。

飯澤